

# 清酒の製造状況等について

令和元酒造年度分

## 目 次

1. 調査の概要	1
2. 調査結果の総括	2
3. 清酒の製造場数等	3
4. 清酒の製造数量	7
5. 原料米の使用数量等	10
6. 原料用アルコールの使用数量	13
＜参考1＞令和元酒造年度清酒製造状況一覧	
＜参考2＞令和元酒造年度都道府県別清酒製造数量	
＜参考3＞清酒製造数量の推移	
＜参考4＞玄米使用数量の推移	
＜参考5＞特定名称酒の課税移出数量等の推移	
＜参考6＞清酒のタイプ別課税移出数量の推移	

国税庁 課税部 鑑定企画官

# 1 調査の概要

## 1-1 調査目的

この調査は、個々の清酒製造業者の清酒製造状況を分析し、各国税局鑑定官室の諸施策に活用することにより清酒の品質の確保に資するとともに、日本国内における清酒の製造及び製造に関連する事項の実態を把握した上で、国税庁の行う各種の施策を通じて、清酒製造業の発達改善に資することを目的としています。

## 1-2 調査対象期間

調査対象期間は、令和元酒造年度（令和元年7月1日～令和2年6月30日）としています。

## 1-3 調査対象者

調査対象者は、清酒の製造免許を有する酒類製造者とし、調査表を清酒製造場又は蔵置場ごとに提出いただいています。

## 2 調査結果の総括

令和元酒造年度においては、当該調査対象期間に清酒を製造した場数、清酒全体の製造数量ともに前年度と比較して減少傾向にありますが、調査回答場数の減少も一定程度影響したものと推定されます。

特定名称別では、純米吟醸酒の製造数量全体に占める割合（構成比）は前年度と同様に上昇しました。

原料米について、平均精米歩合はほぼ横ばいですが、近年低下する傾向にあった純米吟醸酒の精米歩合は、本年度は上昇しました。

これらをまとめると、清酒全体の製造場数、製造数量は減少傾向にある一方で、製造数量のうち特定名称酒の占める割合が上昇する傾向にあります。

## 3 清酒の製造場数等

### 3-1 概要

清酒製造場数は全体として減少傾向にあります。

### 3-2 解説

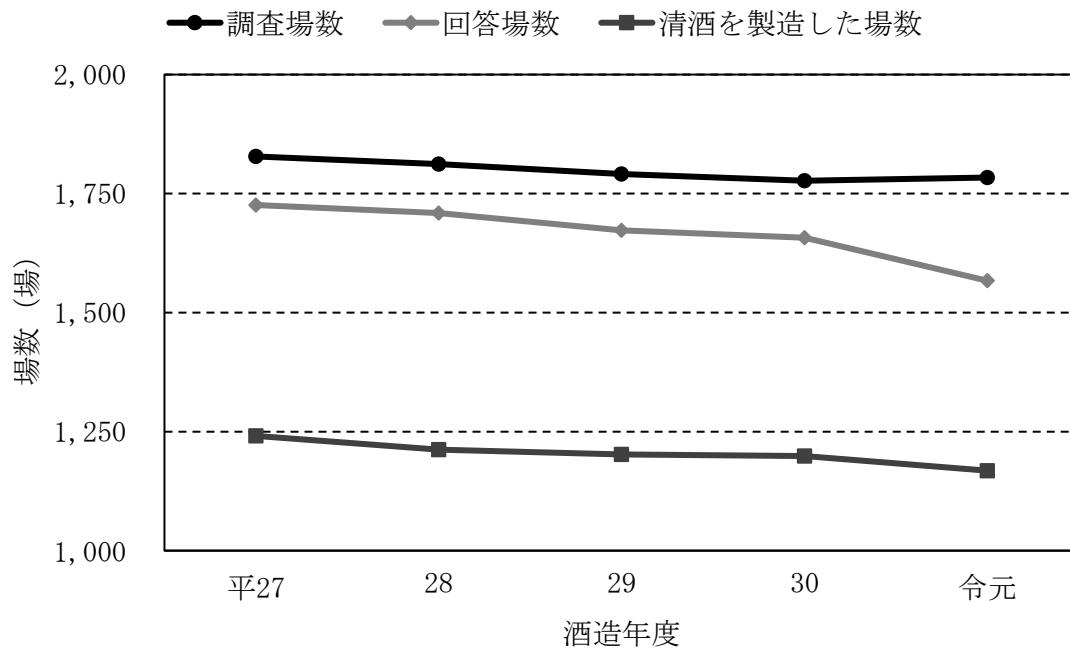
調査対象場数(蔵置場を含む)1,784場のうち、回答場数は1,567場(回収率87.8%)であり、平成30酒造年度調査と比較して90場減少しました。回答場数の減少には、令和2年7月豪雨等の影響が含まれます。

回答場数のうち、令和元酒造年度において清酒を製造した場数は1,168場で、平成30酒造年度調査と比較して31場の減少です。

製造方法別の製造場数は、特定名称清酒においては、純米酒1,004場(前年度1,035場)、純米吟醸酒1,082場(同1,105場)、吟醸酒805場(同834場)、本醸造酒731場(同781場)であり、特定名称清酒以外の清酒(以降、「一般酒」と表記します。)は792場(同824場)となっています。

全調査場数等の推移は図3-1、表3-1、製造方法別調査場数の推移は図3-2、表3-2のとおりです。

図3-1 全調査場数等の推移



(参考) 平成27酒造年度を基点とした場数の比率

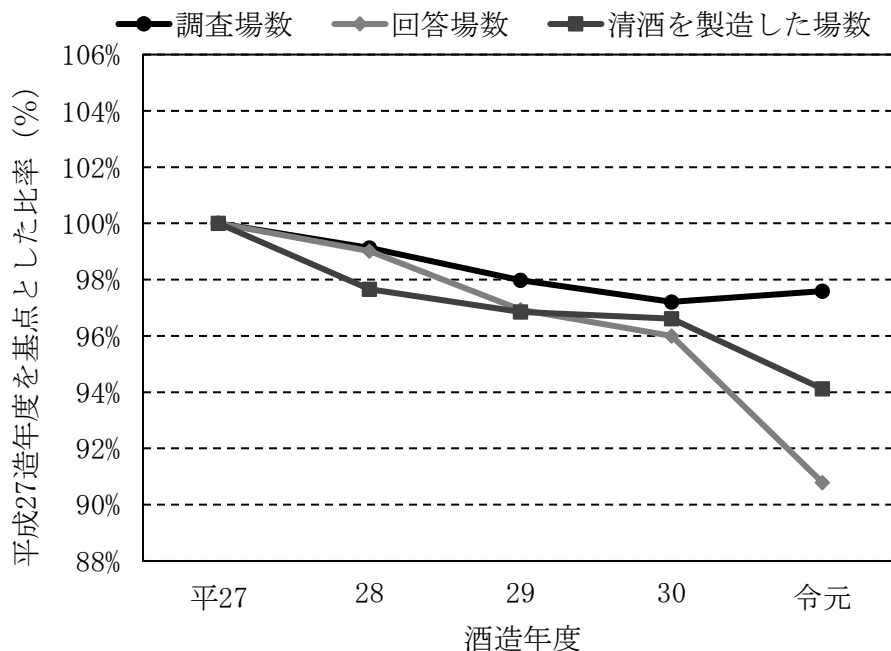
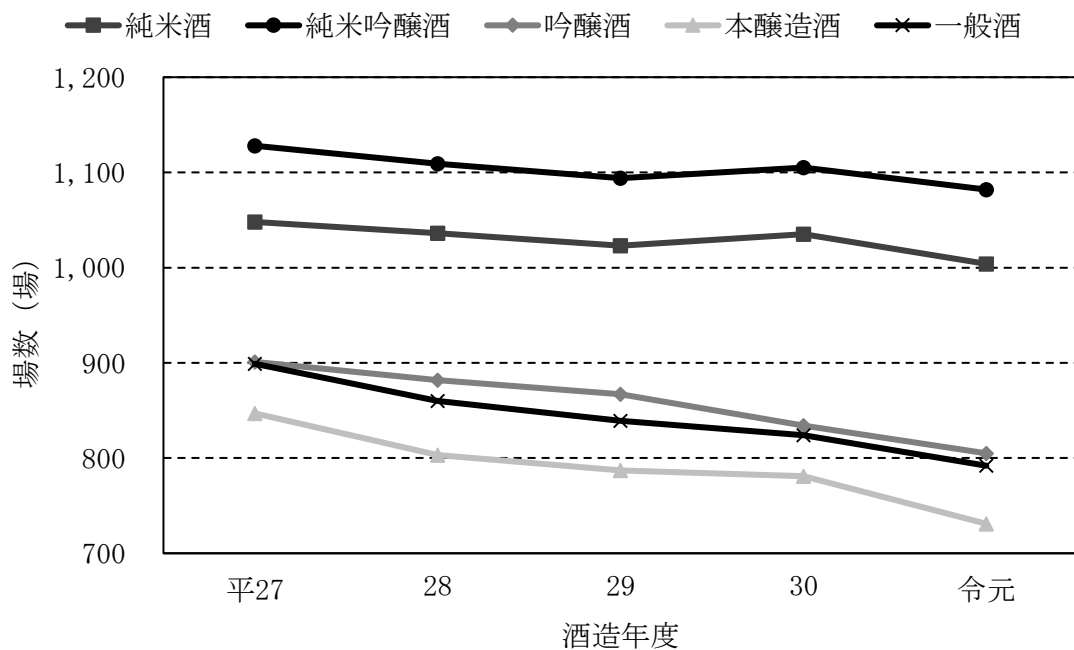


図3-2 製造方法別調査場数の推移



(参考) 平成 27 酒造年度を基点とした場数の比率

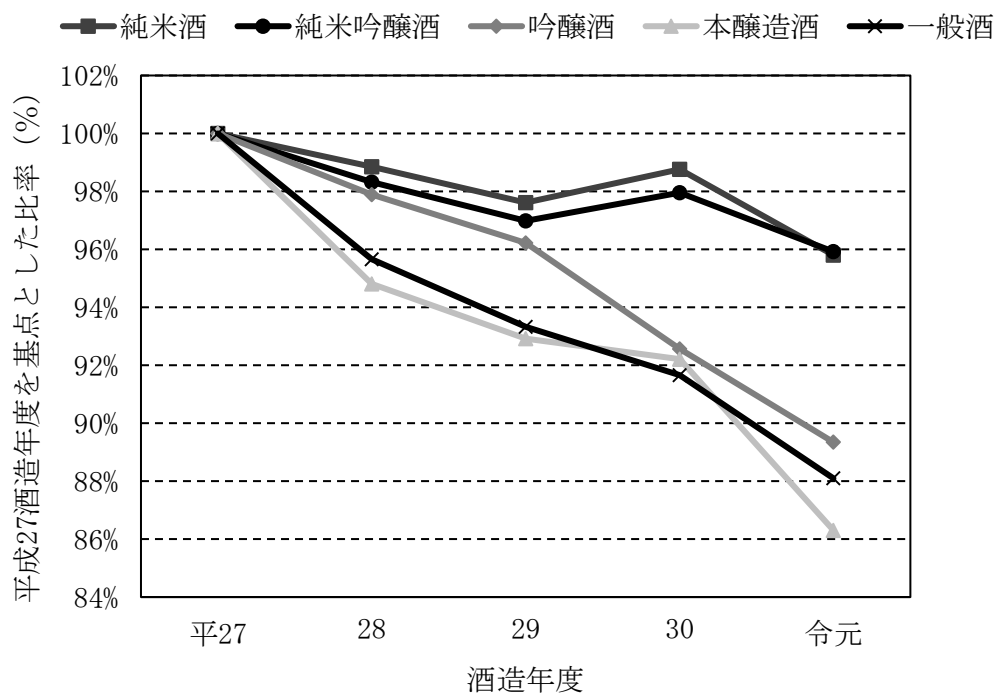


表 3 - 1 全調査場数等の推移

区分	酒造年度				
	平 27	28	29	30	令元
調 査 場 数	場 1,828	場 1,812	場 1,791	場 1,777	場 1,784
回 答 場 数	1,726	1,709	1,673	1,657	1,567
(内) 清酒を製造した場数	1,241	1,212	1,202	1,199	1,168

表 3 - 2 製造方法別調査場数の推移

酒造 年度 区分	平 27	28	29	30	令元
純 米 酒	場 1,048	場 1,036	場 1,023	場 1,035	場 1,004
純米吟醸酒	1,128	1,109	1,094	1,105	1,082
吟 醸 酒	901	882	867	834	805
本 醸 造 酒	847	803	787	781	731
一 般 酒	899	860	839	824	792

## 4 清酒の製造数量

### 4-1 概況

清酒の製造数量は全体として減少傾向にあります。

### 4-2 解説

令和元酒造年度における清酒の製造数量（アルコール分 20 度換算数量）は、340,496 kl（対前年度比 10.8%減）です。そのうち、特定名称清酒の製造数量は、148,832 kl（対前年度比 6.9%減）となっています。

特定名称清酒の製造方法別の製造数量を前年度と比較すると、純米酒は対前年度比 2.3%減、純米吟醸酒は同 6.5%減、吟醸酒は同 10.3%減、本醸造酒は同 12.5%減となっています。

製造数量のうち、特定名称清酒、特に純米吟醸酒の構成比が上昇する傾向にあります。

製造方法別製造数量の推移は図 4-1 及び表 4 のとおりで、純米酒、純米吟醸酒の製造数量の推移は図 4-2 のとおりです。



図4-1 製造方法別製造数量の推移

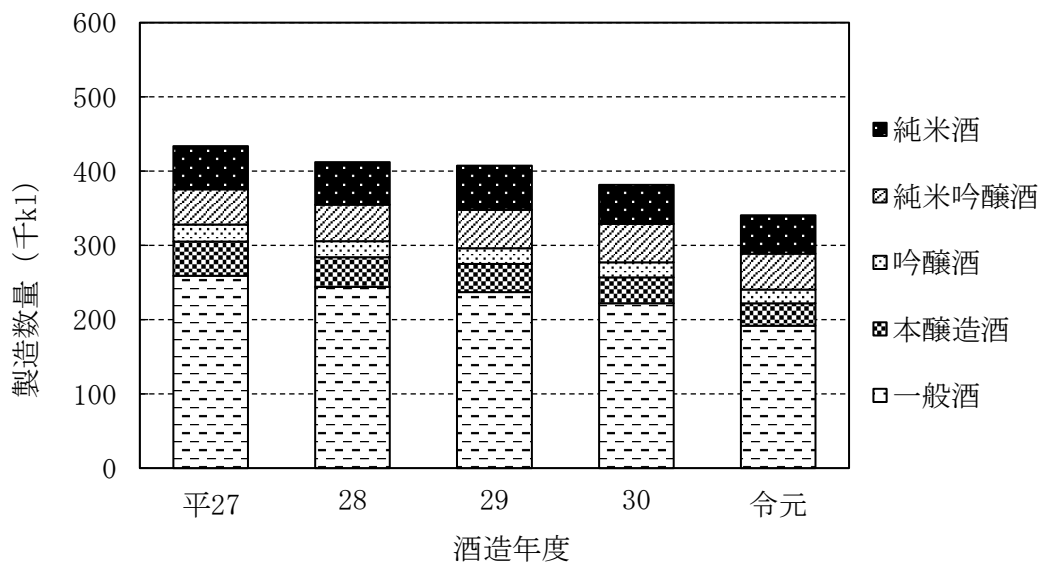


図4-2 純米酒、純米吟醸酒の製造数量の推移

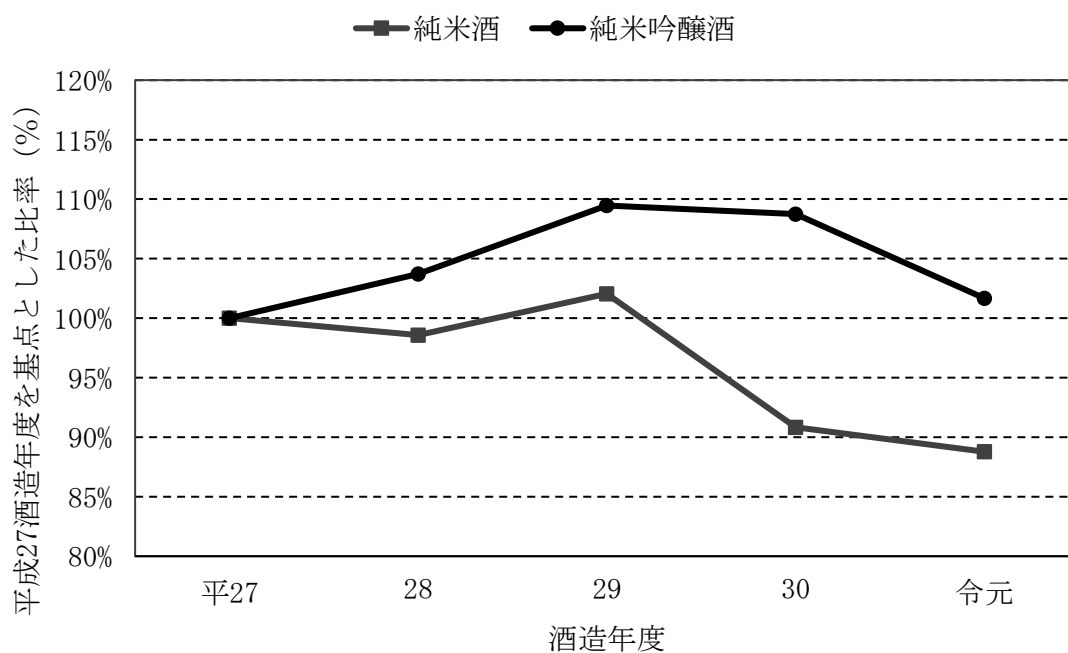


表4 製造方法別製造数量（アルコール分20度換算）の推移

区分	酒造年度	平 27	28	29	30	令元	前年度比
純米酒		k1	k1	k1	k1	k1	%
		(13.4)	(13.9)	(14.6)	(13.9)	(15.2)	
		58,322	57,491	59,519	52,970	51,778	97.7
純米吟醸酒		(10.9)	(11.9)	(12.7)	(13.5)	(14.1)	
		47,348	49,103	51,831	51,488	48,147	93.5
吟醸酒		(5.3)	(5.2)	(5.2)	(5.4)	(5.4)	
		22,984	21,489	21,149	20,557	18,445	89.7
本醸造酒		(10.6)	(9.8)	(9.4)	(9.1)	(8.9)	
		45,947	40,232	38,144	34,821	30,462	87.5
(特定名称の清酒)		(40.3)	(40.8)	(41.9)	(41.9)	(43.7)	
小計		174,601	168,314	170,643	159,836	148,832	93.1
一般酒		(59.7)	(59.2)	(58.1)	(58.1)	(56.3)	
		259,120	243,955	236,920	221,914	191,664	86.4
合計		(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	
		433,721	412,270	407,563	381,749	340,496	89.2

(注) 1. ( ) 書は、構成比(%)です。

2. 集計値の端数処理の関係で、各値の合計が合計値と異なる場合があります。

## 5 原料米の使用数量等

### 5-1 概要

平均精米歩合はほぼ横ばいですが、近年低下する傾向にあった純米吟醸酒の精米歩合は、本年度は上昇しました。

### 5-2 解説

令和元酒造年度における清酒用原料米は、玄米としては 205,662t（対前年度比 9.4%減）、白米としては 132,282 t（同 9.2%減）が使用されています（米粉を含みます）。

原料米使用数量の推移は図 5-1 及び表 5-1 のとおりです。

平均精米歩合は 63.2%（前年度 63.0%）で、ほぼ横ばいです。純米吟醸酒の精米歩合については、近年低下する傾向がありましたが、本年度は上昇しました。平均精米歩合の推移は図 5-2 及び表 5-2 のとおりです。

図 5-1 原料米使用数量の推移

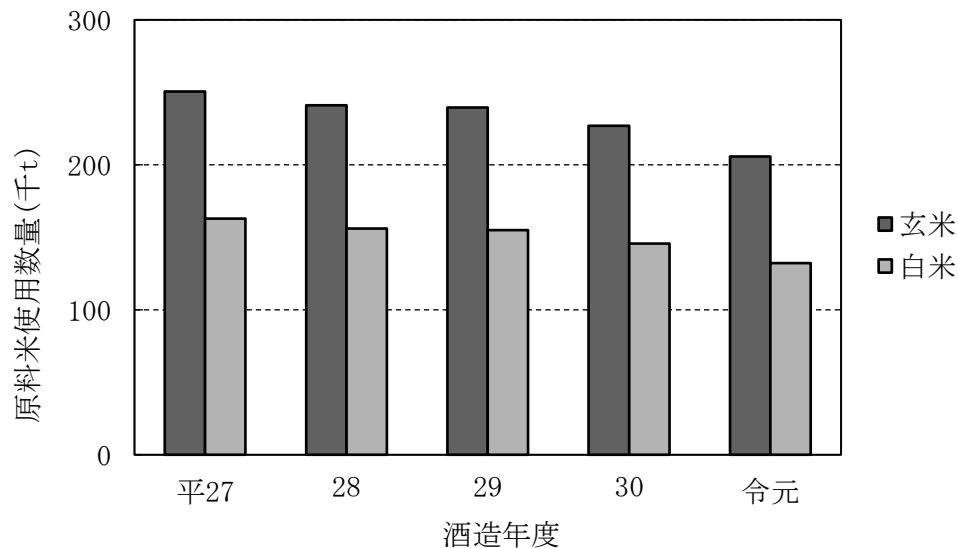
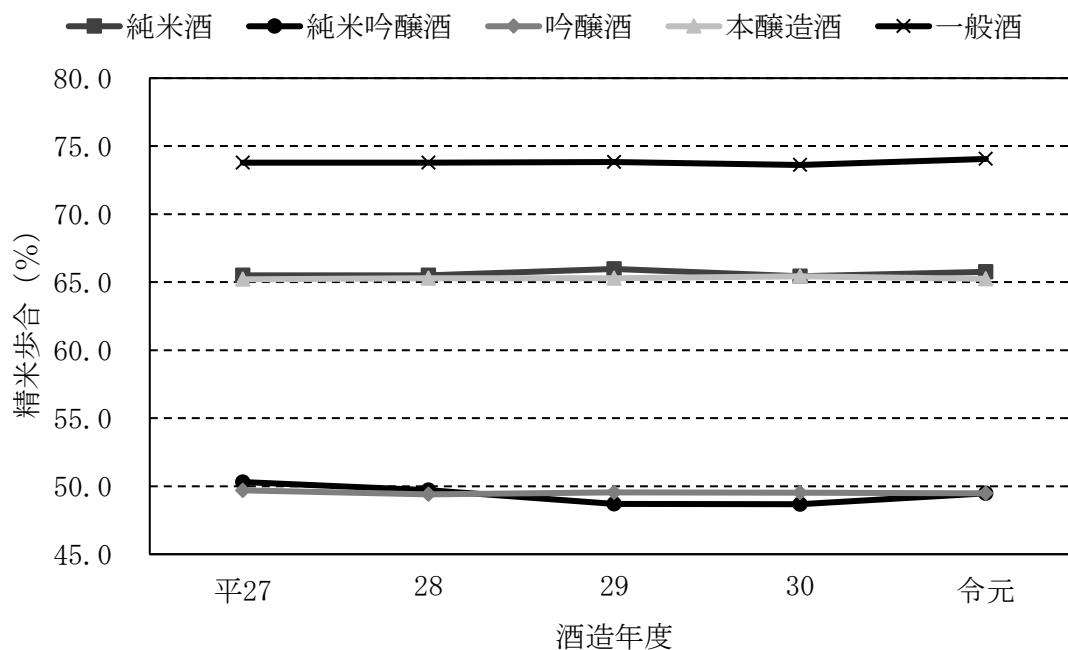


図5-2 製造方法別平均精米歩合の推移



(参考) 平成27酒造年度を基点とした場合の精米歩合の比率

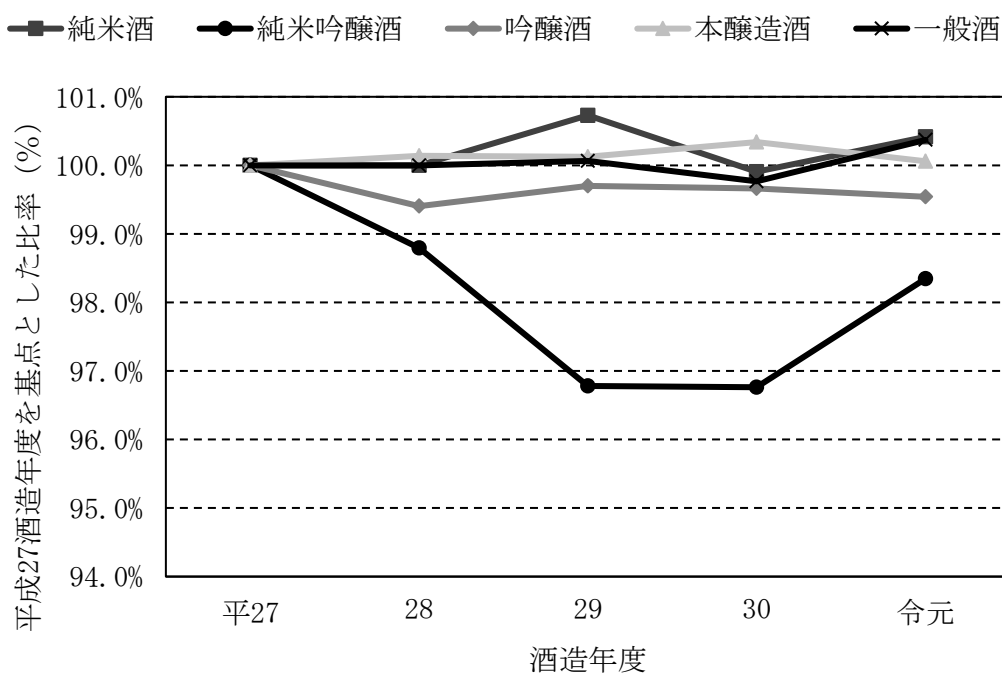


表 5 - 1 原料米使用数量の推移

酒造年度 区 分	平 27	28	29	30	令元	前年度 比
	t	t	t	t	t	%
玄 米	250,537	241,022	239,517	227,025	205,662	90.6
白 米	163,005	156,110	155,007	145,619	132,282	90.8

表 5 - 2 平均精米歩合の推移

酒造年度 区 分	平 27	28	29	30	令元
	%	%	%	%	%
純 米 酒	65.5	65.5	66.0	65.4	65.8
純米吟醸酒	50.3	49.7	48.7	48.7	49.5
吟 醸 酒	49.7	49.4	49.5	49.5	49.5
本 醸 造 酒	65.2	65.3	65.3	65.4	65.3
一 般 酒	73.8	73.8	73.8	73.6	74.1
全 体	64.6	64.0	63.5	63.0	63.2

## 6 原料用アルコールの使用数量

### 6-1 概要

原料用アルコールの使用数量は減少傾向にあります。

### 6-2 解説

令和元酒造年度の清酒製造に使用された原料用アルコールの数量（アルコール分100度換算数量）は18,559 kl（対前年度比13.3%減）です。

白米1tあたりに換算すると140.3 l（同4.5%減）となり、減少傾向にあります。原料用アルコールの使用数量の推移は図6及び表6のとおりです。

図6 原料用アルコール使用数量（アルコール分100度換算）の推移

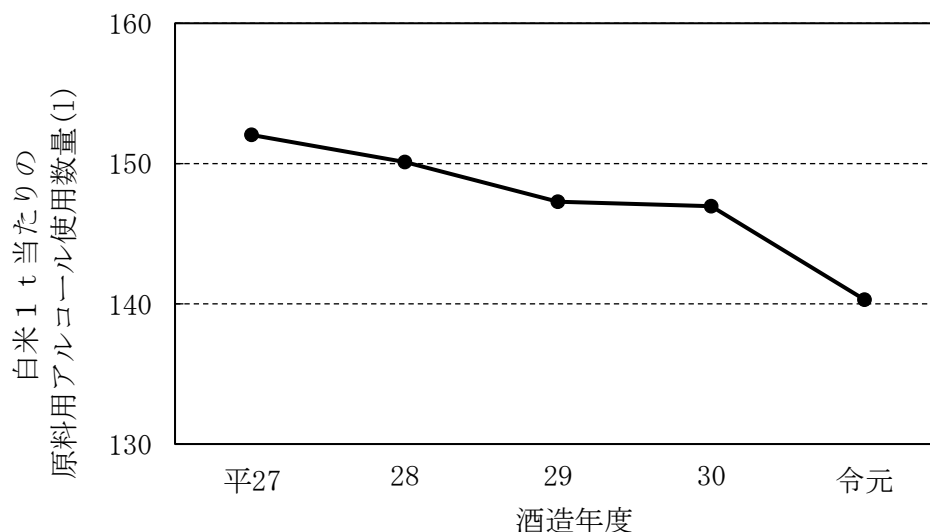


表6 原料用アルコール使用数量（アルコール分100度換算）の推移

区 分	酒造年度					
	平 27	28	29	30	令元	前年度 比
使用数量	k1 24,783	k1 23,432	k1 22,828	k1 21,400	k1 18,559	% 86.7
白米1t当たり 使用数量	1 152.0	1 150.1	1 147.3	1 147.0	1 140.3	% 95.5

<参考1>

## 令和元酒造年度清酒製造状況一覧

区分	製造場数	製成清酒			
		実数	純アル数量	平均アルコール分	平均日本酒度
純米酒	1,004	58,558	10,356	17.7	1.4
純米吟醸酒	1,082	56,742	9,629	17.0	0.6
吟醸酒	805	19,891	3,689	18.5	3.3
本醸造酒	731	31,127	6,092	19.6	3.3
一般酒	792	187,991	38,333	20.4	1.1
<b>全体</b>	<b>1,168</b>	<b>354,309</b>	<b>68,099</b>	<b>19.2</b>	<b>1.4</b>

区分	製成かす 実数	使用原料			
		米		アルコール又は焼酎	
		玄米	白米	(純アル数量)	白米1tあたり
	t	t	t	kl	l
純米酒	8,012	41,362	27,203	—	—
純米吟醸酒	10,060	53,662	26,549	—	—
吟醸酒	3,020	16,493	8,159	815	99.8
本醸造酒	3,776	19,619	12,802	1,406	109.8
一般酒	12,377	74,525	57,570	16,338	283.8
<b>全体</b>	<b>37,245</b>	<b>205,662</b>	<b>132,282</b>	<b>18,559</b>	<b>140.3</b>



区分	使用原料					
	糖類		酸類			
	ぶどう糖	水あめ	乳酸	こはく酸	くえん酸	りんご酸
	kg	kg	kg	kg	kg	kg
純米酒	—	—	—	—	—	—
純米吟醸酒	—	—	—	—	—	—
吟醸酒	—	—	—	—	—	—
本醸造酒	—	—	—	—	—	—
一般酒	966,565	2,241,360	10,359	7,518	3,981	463
<b>全体</b>	<b>966,565</b>	<b>2,241,360</b>	<b>10,359</b>	<b>7,518</b>	<b>3,981</b>	<b>463</b>

区分	使用原料			各種歩合	
	清酒かす	清酒 実数	純アル数量	精米歩合	かす歩合
純米酒	—	—	—	65.8	29.5
純米吟醸酒	—	—	—	49.5	37.9
吟醸酒	—	—	—	49.5	37.0
本醸造酒	—	—	—	65.3	29.5
一般酒	30	38	6	74.1	21.5
<b>全体</b>	<b>30</b>	<b>38</b>	<b>6</b>	<b>63.2</b>	<b>28.2</b>

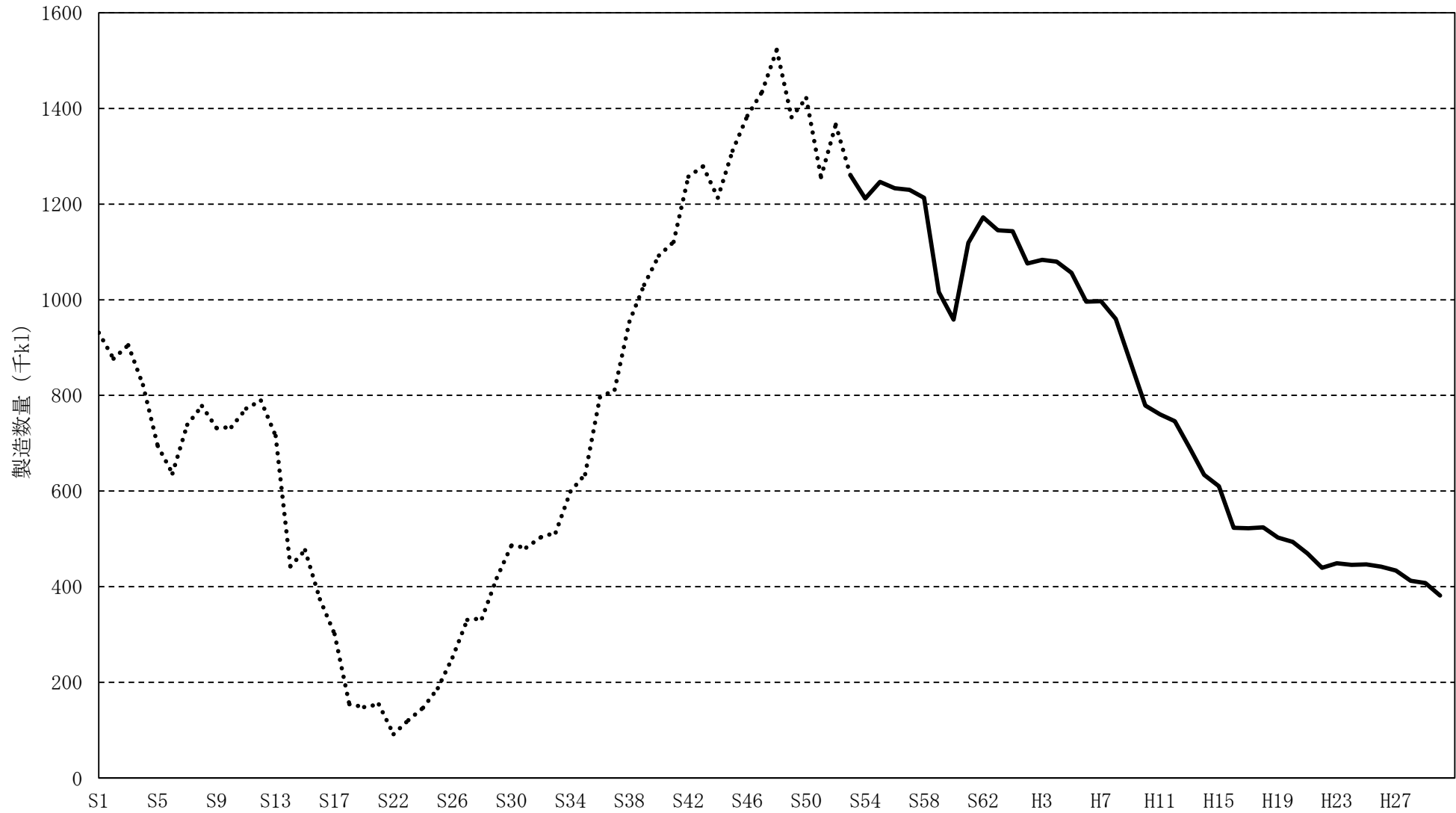
- (注) 1. 集計値の端数処理の関係で、各値の合計が合計値と異なる場合があります。  
2. 純アル数量とは、清酒（実数）に含まれるアルコール分(100度換算)の数量をいいます。  
3. 日本酒度とは清酒の比重を表す指標です。  
4. 精米歩合とは、玄米からぬか、胚芽等の表層部を取り去った状態の米の、その玄米に対する重量の割合をいいます。

<参考2> 令和元酒造年度都道府県別清酒製造数量（アルコール分20度換算）

数量 (kl)	清酒全体	内			数量 (kl)	清酒全体	内			数量 (kl)	清酒全体	内		
		特定名称酒	吟醸系	純米系			特定名称酒	吟醸系	純米系			特定名称酒	吟醸系	純米系
都道府県					都道府県					都道府県				
北海道	3,487	2,182	623	1,685	神奈川県	778	704	436	548	鳥取県	587	447	276	374
青森県	3,145	2,547	1,177	2,148	山梨県	7,737	2,458	461	2,267	島根県	1,420	976	467	875
岩手県	2,833	2,022	1,048	1,480	富山県	3,805	2,771	1,032	1,077	岡山県	1,747	1,207	451	715
宮城県	5,420	5,203	1,304	3,425	石川県	4,091	3,703	1,051	2,875	広島県	5,747	3,350	1,616	2,230
秋田県	12,589	7,051	3,653	4,599	福井県	2,592	2,117	1,445	1,415	山口県	5,493	5,070	4,552	4,851
山形県	7,256	6,230	3,607	4,225	岐阜県	3,403	2,339	1,312	1,519	徳島県	291	268	164	151
福島県	8,587	6,141	3,010	5,081	静岡県	3,125	2,678	1,005	1,685	香川県	782	676	197	303
茨城県	2,595	1,411	651	1,094	愛知県	9,799	2,270	1,197	1,447	愛媛県	1,221	678	483	443
栃木県	6,164	2,197	1,236	1,814	三重県	1,900	1,651	1,038	1,339	高知県	3,853	2,726	1,199	2,150
群馬県	2,234	1,464	635	754	滋賀県	2,954	1,125	586	922	福岡県	2,613	1,805	894	1,398
埼玉県	15,189	2,695	733	1,776	京都府	59,975	12,232	4,743	8,578	佐賀県	2,108	1,548	760	1,274
新潟県	28,693	21,197	11,560	9,917	大阪府	688	533	240	349	長崎県	741	412	178	245
長野県	6,455	4,121	2,054	3,059	兵庫県	93,599	24,107	6,670	14,727	熊本県	703	492	157	313
千葉県	6,372	1,132	565	787	奈良県	2,672	2,055	913	1,783	大分県	1,887	758	243	548
東京都	1,275	886	378	628	和歌山県	1,732	1,086	551	978					

- (注) 1. 「吟醸系」とは、吟醸酒及び純米吟醸酒を示しています。  
 2. 「純米系」とは、純米酒及び純米吟醸酒を示しています。  
 3. 製造数量が200kl未満の県については記載を省略しています。  
 4. 令和2年7月豪雨等の影響により、九州の一部地域を中心に回答場数が減少しています。

<参考3> 清酒製造数量の推移



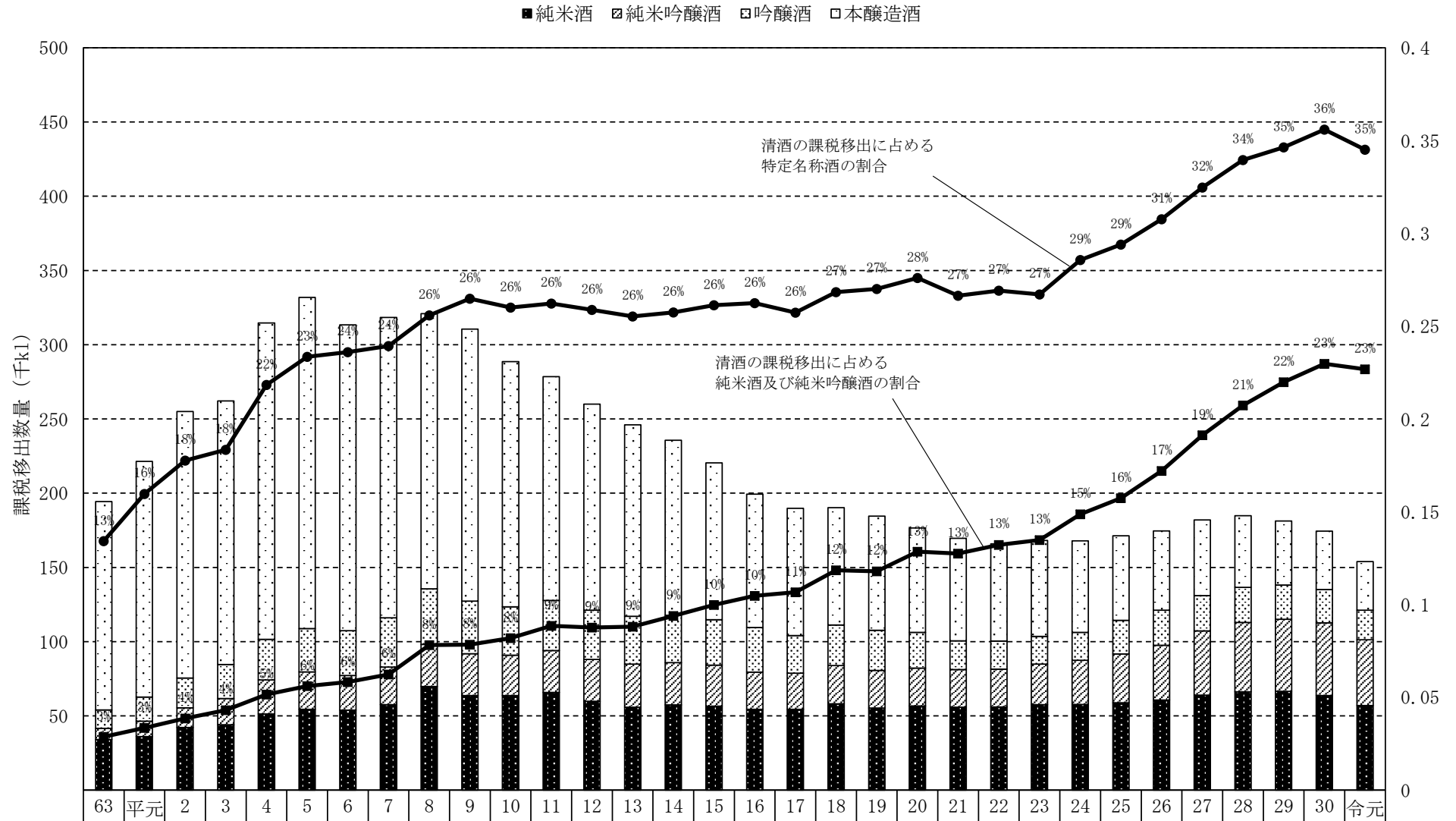
- (注) 1. 昭和52年以前の値については、本調査開始以前に本調査とは体系の異なる調査の結果から算出された値であるため、参考値となります。  
2. 清酒製造数量のピークは昭和48年です。

<参考4> 玄米使用数量の推移



- (注) 1. 昭和52年以前の値については、本調査開始以前に本調査とは体系の異なる調査の結果から算出された値であるため、参考値となります。  
2. 玄米使用数量のピークは昭和48年です。

<参考5> 特定名称酒の課税移出数量等の推移



<参考6> 清酒のタイプ別課税移出数量の推移

